

■高津伊兵衛(初代) {にんべん}の創業者。削り節やふりかけ、調味料を製造、水産加工品メーカーとして業界最古参。

たかついべえ

越後騒動・・・1679＝

家祖与次兵衛が尾張国より移った伊勢国三重郡四日市で、雑穀・油・干鰯商を営む二代目高津与次兵衛の次男に生まれる。幼名伊之助。{にんべん}ではこの日を創業記念日とする。

徳川綱吉將軍1680＝ 1歳：

堀田正俊暗殺1684＝ 5歳：

日本永代蔵・1688＝ 9歳：

別子銅山始・1691＝12歳：単身江戸に出て、日本橋小舟町一丁目の雑穀商{油屋太郎吉}へ年季奉公に入る。

生類憐令頂点1695＝16歳：

・・・・・・1697＝18歳：

・・・・・・1699＝20歳：*独立し、{青物町甚右衛門}の出店衆として、四日市河岸土手蔵前に戸板2,3枚を並べ、鰯節や塩干の販売を行う。{にんべん}ではこれを以て創業とする。

団十郎刺殺・1704＝25歳：_5年間で200両を貯め、江戸一の間屋街であった小舟町三丁目に鰯節問屋を設ける。

御蔭参流行・1705＝26歳：*屋号を{伊勢屋}と定め、伊兵衛を名乗る。{にんべん}の商標“イ”の文字は{伊勢屋伊兵衛}に因み、堅実な商売を意味する鉤型と合わせる。当時の町人らが親しみを込めて“にんべん”と呼んだのが始まりという。

・・・・・・1706＝27歳：

ソウヂ拘束・1708＝29歳：_前田綱紀三女敬姫と池田吉泰の婚礼、前田吉徳と徳川綱吉養女松姫の婚礼に際し、御用を与る。
徳川綱吉没・1709＝30歳：

西洋紀開・・・1715＝36歳：

徳川吉宗將軍1716＝37歳：

御蔭参流行・1718＝39歳：大坂の{須磨屋三郎右衛門}{岩田屋喜兵衛}からの仕入ルートを開拓する。

洋書輸入解禁1720＝41歳：*現在地の瀬戸物町に出店、支配人に源兵衛を置く。{越後屋}と同様“現金掛け値なし”商法を取り入れる。

小石川薬園・1721＝42歳：_大火で類焼し、土蔵造りに建て替え、以後、関東大震災まで焼失を免れる。同業問屋4軒・仲買65名が結託して仕入の妨害を試みるが、予め大坂と熊野に在庫を取置き対抗。

・・・・・・1722＝43歳：瀬戸物町店を本店と定め、小舟町店は源兵衛に与える。

火の見櫓制・1723＝44歳：_前田吉徳の家督相続に際し、また、前田綱紀養女長姫と酒井忠寄の婚礼に際し、御用を与るが、

近松没・・・1724＝45歳：*前田綱紀葬儀のため前田家中屋敷に向かう途中中風に倒れ、急遽、長男長太郎が二代伊兵衛を襲名。以降経営が傾き始めるなか、

梅岩心学始・1729＝50歳：_没した。

その後、江戸時代を通じて代々堅実に経営することで維持され、近代に入って、そのブランド力が生きることになる。